

平成30年度第2回厚木市子ども育成推進委員会会議録

日時 平成30年10月11日（木）午後2時30分から午後3時55分まで

場所 厚木シティプラザ6階 青少年課管理室B

出席者：子ども育成推進委員7人、こども未来部長、こども育成課長、こども政策係長、こども政策係担当者、保育課長、保育施設係長、青少年課長、青少年施設係長、青少年課主幹（子ども科学館担当）、青少年施設係担当者
傍聴者：なし

委員10人中7人出席（過半数）により会議は成立。

会議の経過は次のとおり。

1 開会

こども育成課長

2 委員長あいさつ

3 案件

(1) 厚木市子ども・子育て支援事業ニーズ調査の実施について

事務局から資料に基づき説明

【質疑等】

委員：前回の調査から対象者を減らした理由は何か。

事務局：前回の調査は、未就学児6,000人、小学生4,000人で、多くのデータを収集したが、今回は第2期の計画で第1期の実績も反映でき、近隣市の実施状況や対象者数を減らしても統計として信頼性のある数値が算出できると判断したため、対象者を未就学児4,000人、小学生2,000人とした。未就学児に比べ小学生の対象者を減らした理由は、未就学児に対し「量の見込み」の算出が必要な調査対象事業が少ないためである。どちらも信頼性の高い数値が算出できるが、特に未就学児について詳細に分析し、今後の待機児童対策に活用するため、小学生より対象者を多くしている。

委員：調査票で専門的や抽象的な表現があり、市民が読んだときに分かりづらい。

事務局：国の調査票を活用している。今後、委託業者と調整し、誰が見ても分かりやすく、回答しやすい調査票にしていく。

委員：小学生になってから分かる問題があり、そこで初めて子育てのサポート事業を利用する保護者もいる。小学生のニーズを把握するため、調査票に反映してはどうか。

事務局：調査項目が多くなるため、細かく調査することはできないが、調査票の自由記入欄を活用する。

委員：未就学児調査票問19の子育て支援事業の設問について、厚木市は子育て支援に手厚く様々な事業があるが、事業を知らない保護者も多いことから、

周知する意味でも小学生調査票に加えてはどうか。

事務局：設問内容を精査し、小学生調査票への追加を検討する。

委員長：現行のファミリー・サポート・センター事業では、病児のサポートを受けていないと認識しているが、未就学児調査票問22-1欄外に病児による利用も含まれると記載がある。

事務局：国の制度上、病児を受けることは可能であるが、サービスを提供する側の研修や受ける側に診断書の提出を求める等の条件があることから、厚木市では受けていない。調査票の表記を変更する。

委員：病児保育の現状はどうなっているか。

担当課：今年3月から小規模保育施設に併設して病児保育施設を設置した。定員は、1日3人であり、利用料金は、1日2,000円である。利用に当たっては、医師の連絡票が必要となる。

委員：医師免許を持った職員が常駐するのか。小学生も対象か。

事務局：看護師が常駐する。小学3年生まで利用できる。

委員：病児保育施設を増やす予定はあるか。

事務局：厚木市と同程度の自治体に利用状況を調査したところ、年間約300人の利用である。厚木市の利用状況は、1か月で約20人であり、現状は足りている。今後、利用者が増えてきた場合は、病児保育施設の増設を検討する必要がある。

委員：今回の調査で病児保育のニーズが把握できるのか。

事務局：病児保育施設以外にもベビーシッターやファミリー・サポート・センター事業を希望する保護者もいる。この調査を通じて全体を把握できる。

委員長：前回調査の回答率はいくつか。

事務局：前回調査では、未就学児44.4%、小学生47.4%であった。

委員：前回調査から質問数は増えたか。

事務局：数問増やす予定である。

委員長：国の調査票を変更することはできるか。

事務局：自治体の判断で、市独自質問の追加や文言等の変更は可能である。

委員長：質問数が多いことから、保護者の負担感がないように調査票を工夫し、実施していただきたい。

(2) (仮称) こども未来館基本計画について

資料に基づき青少年課が説明、体験実演

委員：利用する子どもたちに意見を聞く機会はあるか。

担当課：現在は大枠を固める計画の段階であることから、実施設計の段階で子どもたちの意見を聞くことを検討している。

委員：コンセプトワーク業務委託の内容は何か。

担当課：2-2地区に建設する予定の(仮称)こども未来館、中央図書館、市役所庁舎は、この地区のコンセプトがサードプレイスであることから、コンセプトを合致させる必要がある。基本計画策定に当たってのアドバイス、資

料の収集及び作成といった支援業務である。

委員長：基本計画の内容から、計画的に事業内容や展示物を更新する必要があると思うが、費用面等の今後の見込みはどうか。

担当課：現段階は、基本計画であり、実施設計で詳細を決定していく。この施設は体験型施設であり、先ほど実演したような手作り感のある実験を多く実施することになる。今後、展示内容のほかに、運営の体制、財源、更新計画等について、決定していかなければならない。

委員：運営を民間へ委託することも含めて検討しているか。施設規模を考えると職員だけでは管理しきれない。新規性、専門性等を考えると、民間に委託する方が良い場合もある。

担当課：プラネタリウムがあり、それ以外の部分でも他市他県から集客が見込まれる施設となることから、企業や大学に貸すことも踏まえながら、運営等の考え方を計画していく。

委員長：施設規模を考慮し、体験をAI化やICT化することは考えているか。

担当課：厚木市の科学体験の特徴は、職員が小学校等に出向き、年間何百と実施し、内容も何千パターンある。職員が子どもたちに実際に話して聞かせるということも重要と考えるので、厚木市の良さとして残していきたい。また、厚木市内には最先端の技術を研究している企業が多くあり、この地域が相模ロボット特区に指定されていることから、最先端の技術を展示できるスペースも計画し、人と技術が融合した厚木らしい施設を目指していく。

委員：開館は先であっても、今の段階から企業や大学にかかわってもらい、計画を検討することが重要である。

担当課：基本構想の段階から企業のエンジニアや大学の教授等の意見を取り入れている。今後も、ワーキングを重ねていく。

委員：企業への貸出スペースはあるか。

担当課：くらしエクスペリエンス展示の中に、企業のブースを設ける予定である。

委員：プラネタリウムはとてもよい番組だ。幼児投影の予約を取るのも大変な状況である。プラネタリウムを市内だけでなく市外にも広めてもらいたい。また、展示物も手作り感があってとてもよい。また、リピーターを増やす工夫が必要である。最初からすべて完成させるのではなく、常にリニューアル工事中で、未完成の部分があっても良いのではないか。次も来館したいと思える施設にしていきたい。

4 その他

事務局から、「幼児教育・保育の無償化」の概要等について説明

5 閉会

辻委員長あいさつ

以上